



- ◆国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック
- ◆第2660地区ガバナー 大橋 秀典
- ◆クラブテーマ「言葉ではなく行動で」

創立 2000年11月2日
例会日 木曜日 18:30-19:30
例会場 ホテル・アゴーラ大阪守口
事務局 守口市河原町10-5
ホテル・アゴーラ大阪守口5F
TEL06-6995-7440 FAX06-6995-7441
会長 長野 良雄
幹事 水谷 武志
会報担当 クラブ運営委員会
E-mail m-evening@msj.biglobe.ne.jp
http://www7b.biglobe.ne.jp/~m-eveningrc/
m-eveningrc/

本日例会 2025年 4月10日(木) 第996回

担当：社会奉仕委員会

講話：「献血について」

講師：大阪府赤十字血液センター
門真献血ルーム

川口 広志 様

前回例会 2025年 3月27日(木) 第995回

1. 開 会 会 長
2. ロータリーソング「我等の生業」
3. お客様のご紹介
守口門真青年会議所シニアクラブ
2025年度会長 利川 幸大様
(紹介者：元古会員)
4. 幹事報告
①事務局閉局連絡 3/31(月)有給休暇取得
②例会休会連絡 4/3(木)細則休会
③会議開催連絡
・4/3(木)米山オリエンテーション
小林カウンセラー、宋ハヌルさん出席
・4/5(土)次年度のための地区協議会
次年度各委員長および担当会員出席
④回覧 4/17(木)親睦食事会出欠確認回覧
(食事会場：マジョリカ)
5. 出席報告 (会員総数17名)
3月27日 出席9名 欠席8名 出席率52.94%
メイクアップ報告
2月20日 出席10名 欠席7名 出席率58.82%
(メイクアップ者1名)
6. 会長の時間
7. 本日のプログラム
担 当：国際奉仕委員会
卓 話：「地区メディア懇談会に出席して」
卓話者：小林 澄子 会員
8. 閉 会 会 長

- 例会前の会合 次年度理事会
- 親睦食事会 ザ・ループ

会長の時間

自信が湧いてくる言葉
パート 3

「ない」ではなく「気付いていない」だけ
人間というものは、他人の才能については羨ましがするのに、自分の才能については気がつかないという不思議な習性を持っています。そしてなぜか、自分については欠点ばかりに目を向けてしまいます。「自分には才能がない」のではなく、単に自分の才能に気がついていないだけなのです。

一流のメンタリティー

仕事でも恋愛でも趣味でもいい。あなたは時間や寝食を忘れて何かに没頭したことがありますか？この問いに「ある」と答えた人は必ず成功できます。なぜか？あなたが何かに打ち込んだその状態、それが成功者のメンタリティーだからです。そこを経験しているということは、あなたもすでに一流のメンタリティーを手にしてしているということなのです。

いきなり100点を狙わない

チャレンジをためらう一番の原因。それは「最初からうまくいかせなければ」と思うことです。たとえ失敗して笑われたとしても、繰り返していれば必ず上達します。野球でもピアノでも仕事でも、いきなり上手にできる人などこの世に一人もいないのです。

INFORMATION

次回例会 2025年4月17日(木) 第997回

クラブ親睦例会 (ノーマイカー例会)

卓話担当：クラブ運営委員会 金崎会員
親睦食事会場：「マジョリカ」

※アゴーラでの例会終了後に食事会場へ移動します。

※アルコールもめますので車や自転車での来会ご注意ください。

4月の例会休会日

4月24日(木) 細則休会



卓話「地区メディア懇談会に出席して

小林 澄子 会員

私は2006～07年から2010～11年まで5年間地区国際奉仕委員会に出向していました。国際ロータリーは国際平和を目的に活動している団体ですから、国際奉仕委員会の役目は大切です。新しくクラブ国際奉仕委員長になられた方が、どのように始めればいいのか役立情報や手引きを作り広報することが求められています。当クラブは台北長安RCと姉妹クラブになりました、それからは交互に互いのプロジェクトに協力して、欠かすことなく国際奉仕事業をしております。

さて、15年以上前になりますが、当時は国際奉仕事業をしないクラブは、任意で地区国際奉仕・WCS委員会へ人頭5000円のドネーションをする慣例がありましたから、地区委員会では拠出金を有意義に使うためと、事務局へ諸外国から来るプロポーザルを精査する目的も持ち、手弁当で視察に行っていました。ミャンマー3回、カンボジア5回、トルコ、フィリピン、インドネシアへ行きました。どこも貧しい地域でしたので、危険と水や食あたり注意しながらも、先方のロータリークラブのお世話を受け、ロータリアンでこそ体験できる素晴らしい仲間との出会いを繰り返した忘れられない数々の思い出があります。特に国際奉仕委員会の先輩ロータリアンからは、多くの教えを頂きました。まずは出発前にアポイントを取っておいて、日本のお菓子などをお土産に駐日本大使館を表敬訪問し、情報を交換し現地でのご苦労をお聞きして、懇親を深めます。そして、東南アジアには必ずある戦没者の慰霊碑にお参りします。旅に浮かれて食事は食べきれないほど注文してはいけません。ランチにビールはいけません。水は貴重ですから、お手拭きとかお皿の替えを要求してはいけません。ウェルカムパーティをして頂いたら、相応のドネーションをしましょう。予定が滞りなく終わったら、ささやかでも「ありがとう」のフェアウェルパーティを主催して感謝の気持ちを表しましょうと教わってききましたので、今もそのように心掛けています。

カンボジアでの思い出は、今は現地で「デメテル」というハーブティの会社を企業している元国際親善奨学生西口美千恵さんのSOCSで、前年視察したグラフィス診療所の完成を支援する事業でした。始まりは東京の医学部生達がカンボジアに病院を作る夢を追い掛けて「ラブチャリ」という名称のチャリティーイベントで資金集めの活動をしていましたが、活動の継続が難しくなり、国道から建築予定地までの道路の整備と、病院の床と骨組みのみで資金が途絶えていました。視察した病院の回りにはソーラーシステムで電気を誘導し、小川や畑も作られており、ここはどうしても完成させて救急病院として役立てたいと思い2660地区のクラブにニューズレターで声をかけ、13クラブの協力を得て42,729ドルを作り医療器具やベッドを支援し、地区資金から10,000ドルを拠出し建物を完成させ開業にこ

ぎつけました。病院の医師であるピーターリー博士が理想としていた、地雷が埋まっている奥地ジャングルの村に、緊急手術や入院、リハビリも可能な清潔な病院が皆の力で完成しました。現在も広範囲の人々や旅行者の役に立っていると思います。

今年は5回目のカンボジア奉仕事業になります。プロポーザルはアンコールRCのアンナ会長と上場俊哉名誉会員からでした。アンコールワット近くのシムリアップ州立病院に、日本政府がODA約22億円を用いて外科病棟を新築し、関係機材一式を提供する事業が進行中で、具体的にはJICAが2023年10月頃の完成を目指し進めていました。これに呼応して「現在の手書きカルテに代わり電子カルテシステムを導入して患者診察管理システムの質的改善、医療サービスの飛躍的向上を図りたい。2022年には115,000人の患者の診療実績がある病院です。是非とも国際ロータリーの協力をお願いします」と医療現場から強いニーズがあるとの報告を受けました。そこで姉妹クラブである台北長安RCにも協力してもらおうため台北に行き、カンボジアから来たアンナ会長と落ち合い、台北長安RCも交えて詳しく説明を聞き、全員がGOということになりました。

事業実施のために、多くのクラブと地区を探する必要があります。台北長安は3クラブ3地区の協力を得て、2660地区では3RCが協力してくれましたがまだまだ足りません。そこで東日本大震災時に、被災されながらも共に奉仕活動をした2520地区大槌RCに協力を依頼したところ快諾して下さいました。また東日本大震災事業で知り合った奥州水沢東RCへ依頼したところ2520地区の6クラブが東日本大震災支援のお返しとして協力して下さいました。結果14クラブ6地区が力を合わせ、拠出金は50,600ドルになり、ロータリー財団からのグローバル補助金を併せて77,000ドルのビッグプロジェクトが形になりました。次年度は今年協力して下さいた台北長安RCがホストRCとなり、GGを申請してシムリアップ州立病院の医師2名を台北に招き、脳脊髄外科手術と消化器科内視鏡手術研修を受けるVTT職業研修プロジェクトを立ち上げました。国際協力代表クラブは守口イブニング、協力クラブはオーストラリアのハッピーバレーRCです。68,800ドルの事業で支援の輪が広がっています。

国際ロータリーは親睦と奉仕が両輪です。その為、ロータリーの目的の第1項は知り合いを広めることによって、奉仕の機会とすることとなっています。奉仕は相手からのプロポーザルに答えてするのが基本です。知り合いが少ないとチャンスも少ないことになり、また事業を決めても、協力者が少ないと資金面が難しい事もありますので大いに知り合いを広めて下さい。私達ロータリアンは平和構築にあらゆる方法で手を差し伸べる事ができるバッジを併用し、その機会を与えられています。力を合わせて最善を尽くしていきましょう。

(当日配布資料より抜粋)